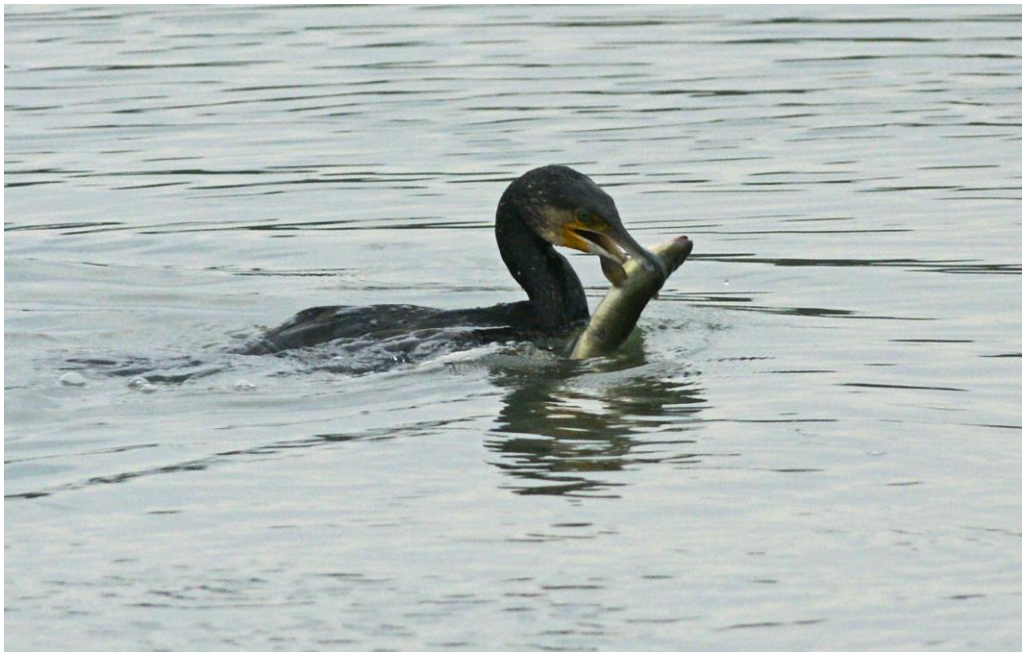


平成27年度  
岡山県内におけるカワウ生息調査報告書  
(夏季調査)



日本野鳥の会岡山県支部

平成27年 9月

## I. カワウ調査の目的

### 1. カワウ調査の目的

近年、カワウの個体数の増加により、採食地である湖沼・河川において人間活動との軋轢が増加しています。しかし、過去に著しく生息数が減少して絶滅の危機にさらされたこともあることから、生息数調査および行動実態調査を行い、県下においての人との共存の基礎資料とすることを目的としています。

### 2. 岡山県の今までの経緯

- ・平成20年度にカワウの全県生息調査を実施
- ・平成26年7月に「中国四国カワウ広域協議会」が発足
- ・平成27年2月に「岡山県カワウ対策協議会」が発足
- ・平成27年度事業として「農林水産省の鳥獣被害防止対策交付金」により本県のカワウ生息状況調査を実施

## II. カワウ生息状況調査計画

### 1. 年間計画

夏季、冬季、繁殖期の3回を予定する。

- 1) 夏季の調査は、6月下旬から8月上旬に、河川・湖沼および海域に分布する巣立ちをした若鳥も含め、県内の総羽数を調査する。
- 2) 冬季の調査は、「冬ねぐら」を中心とした場所で11月下旬から1月上旬にかけて、その利用羽数を調査する。
- 3) 繁殖期の調査は、カワウが繁殖に入る2月中旬から3月上旬に繁殖地（コロニー）における羽数と営巣数を調査する。

注) カワウの本格的繁殖期は3月から6月の間であるが事情により本期間とする。

### 2. 夏季の調査計画

6月下旬から8月上旬までの間、調査員が集まりやすい土曜日を主体として、本年巣立ちをした若鳥の含めたカワウが夏季において、どれほどの羽数が県内に生息しているか、河川・湖沼および海岸域をルートセンサス方式で羽数をカウントする。調査に当たっては、数台の調査用車両を準備して2～4人が乗り組んで河川に沿って川面に居るカワウの数をカウントする方法をとる。なお、調査には8～10倍の双眼鏡と必要に応じ20～40倍の望遠鏡を使用してカワウであることを識別する。

#### 1) 吉井川水系の調査（6月27日と7月4日に実施。）

- ・Aコース 1日目・2日目：吉井川河口から本流 奥津湖～恩原ダムまで
- ・Bコース 1日目：金剛川、八塔寺川・八塔寺川ダム、日笠川、滝川、切池 2日目：吉野川、梶並川・久賀ダム、後山川

- ・ Cコース 1日目：広戸川・塩手池、加茂川、津川・津川ダム、黒木ダム  
2日目：津山市の宮川、皿川、倭文川、久米川、香々美川
- 2) 旭川水系の調査（7月11日と7月18日に実施。）
  - ・ Aコース 1日目・2日目：旭川河口から本流 湯原湖上流部まで
  - ・ Bコース 1日目：児島湖、倉敷川、笹ヶ瀬川、足守川  
2日目：百間川、砂川、児島湾
  - ・ Cコース 1日目：宇甘川、誕生寺川、備中川 2日目：河内川、目木川、新庄川、月田川
- 3) 高梁川水系の調査（7月25日と8月1日に実施）
  - ・ Aコース 1日目・2日目：高梁川河口から本流 千屋ダム上流部まで
  - ・ Bコース 1日目：里見川、小田川、美山川 2日目：成羽川
  - ・ Cコース 1日目：有漢川、佐伏川、小阪部川 2日目：西川、本郷川、三室川ダム、高瀬川ダム、熊谷川
- 4) 海岸域の調査（6月25日、7月2日、7月9日、7月16日に実施）

### Ⅲ. 夏季のカワウ生息状況調査結果

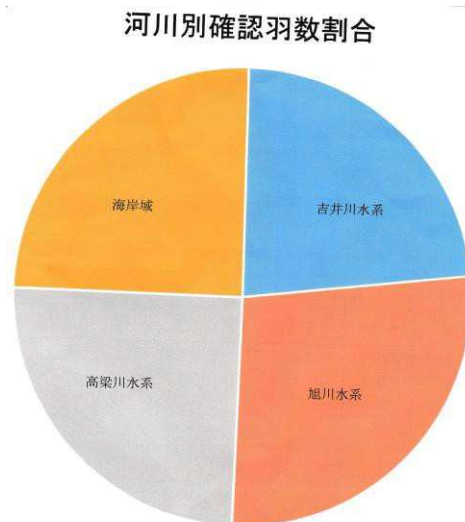
#### 1. 県内全域の生息状況

調査結果から県内全域の生息状況については以下の状況であった。

- 1) 県内全域での生息羽数は、2,282羽を確認した。
- 2) 吉井川水系、旭川水系、高梁川水系、海域における生息羽数分布 表-1

	吉井川	旭川	高梁川	海岸域	合計
確認羽数	528	621	568	565	2,282
確認割合	23.1	27.2	24.9	24.8	100

\* 確認羽数は実際に確認した羽数、確認割合はその%を示す。  
確認割合を図-1に示す。



図－１に示すように、各河川流域及び海岸域において 500～600 羽程度に ほぼ均等に分布していることが分かる。

### 3) 市町村別の生息状況

表－２（確認羽数の多い順）

市町村名	岡山市	倉敷市	高梁市	玉野市	真庭市
確認羽数	7 6 6	3 6 3	1 4 2	1 3 8	1 2 7

市町村名	総社市	備前市	瀬戸内市	美作市	新見市
確認羽数	9 9	8 7	8 1	7 8	7 5

市町村名	勝央町	笠岡市	美咲町	井原市	津山市
確認羽数	6 7	5 8	4 3	4 1	3 8

市町村名	浅口市	赤磐市	鏡野町	矢掛町	和気町
確認羽数	2 6	2 0	1 2	1 2	8

市町村名	奈義町	吉備中央町	久米南町	新庄村	西粟倉村
確認羽数	1	0	0	0	0

上の表から上位 10 位の確認割合（％）を示す。

表－３

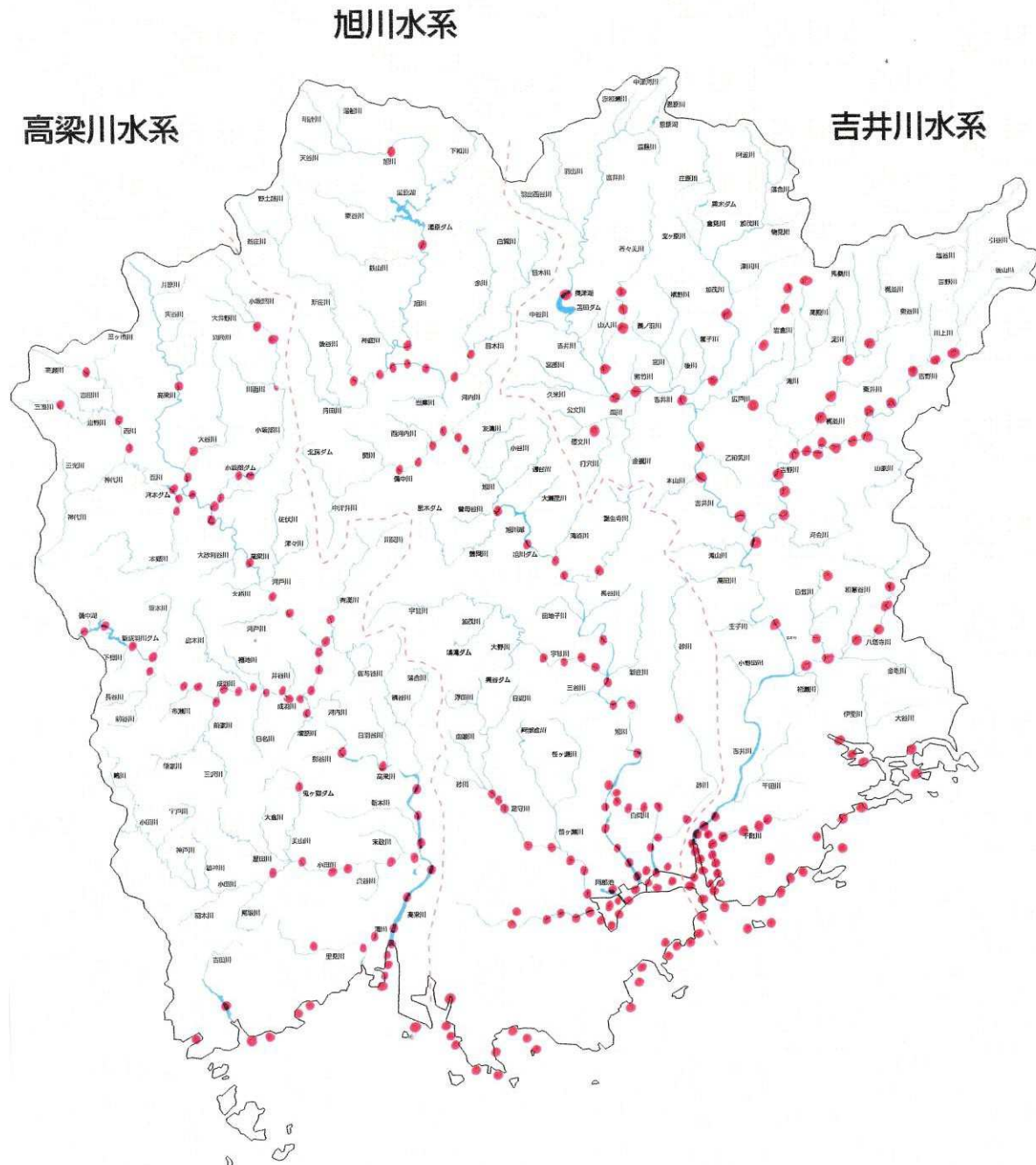
市町村名	岡山市	倉敷市	高梁市	玉野市	真庭市
確認羽数	3 3.6	1 5.9	6.2	6.0	5.6

市町村名	総社市	備前市	瀬戸内市	美作市	新見市
確認羽数	4.3	3.8	3.5	3.4	3.3

の割合になる。岡山市での生息数が圧倒的である。次に倉敷市が続いている。これは、岡山市は、吉井川の河口と旭川の河口と大型河川の河口部を 2 つ持ちさらに、児島湖と児島湾なる水域を抱えているからである。倉敷市は、高梁川の河口を持つことでカワウの生息数が多くなっている。海岸域を所有しているが、大きな河川河口を持たない玉野市や備前市、瀬戸内市の生息羽数はそう多いものではないことが分かる。

#### 4) 全県下の分布状況図

図-2



全県下でのカワウが確認された場所を示す。カワウが確認された場所のプロット数は257点になる。県南部、中部そして県北部にまで広く生息していることが分かる。プロットが集中するのは、児島湖および児島湾、吉井川河口と千町川である。また、河川支流においては、吉野川と成羽川でプロット数が多く見られる。海岸域は割合と均一的に分散しているように見える。

## 7. まとめ

- 1) 県下での夏季繁殖個体は増えているのか。今回の夏季「繁殖後」の全県下での河川流域および海岸域では2,282羽を確認した。この羽数が多いのか、少ないのか、平成20年の他データがある平成18年度、平成14年度との羽数を比較すると以下の表-16となる。

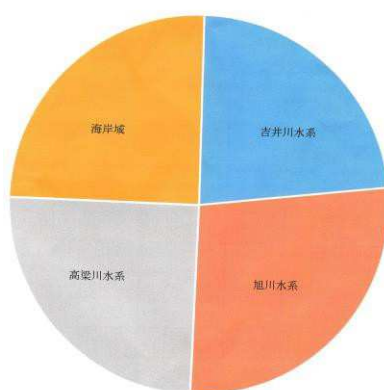
表-16

調査年度	H27年	H20年	H18年	H14年
確認羽数	2,282	1,330	1,318	1,648

過去3回調査の確認羽数の平均値 1,432羽を取ると2,282羽は1.6倍の数字となる。平成20年度から今回の調査までに7年間の空白があるのでその間の羽数の増減関係が不明であるので増えつつあるのか、一定の羽数で推移しているのかが明確でないが、平成20年度当時からは増えた状態であった。

- 2) 生息羽数分布状況 上記調査結果の県内全域の生息状況から、吉井川水系、旭川水系、高梁川水系及び海岸域においてほぼ均等な570羽前後の羽数であったことは驚きであった。どの河川域においても同様な問題を抱えていることが分かる。

河川別確認羽数割合



- 3) 調査で気が付いた点 調査をする中で、地元の方とお話をする機会が何度かありました。  
やはり、カワウの被害と含めて、カワウのコロニー内にはサギ類が同時に繁殖している場所が多くありました。近くに民家等有る場合は、繁殖期に鳥の声が「うるさい」ので困っている。との声もありました。これはカワウの被害と言うよりサギの繁殖時のサワギ声である場所もあった。

(完)